

○観光コース

表示例 ・ バスコース番号： ① ・ 停留所名： バ/停

半日コース Aコース(約 3~4時間) (玉林寺、神明社、メナード美術館、小牧山、間々観音)

小牧駅前 バ/停 小牧駅 コース ⑪ バス約4分	玉林寺・神明社 バ/停 市民会館南 徒歩5分程	メナード美術館 バ/停 メナード美術館前 ⑬ ⑭ バス約8分
注：入館料要		

小牧山 (小牧市歴史館) バ/停 小牧市役所前 コース 52 バス約4分	間々観音 バ/停 間々本町 徒歩8分程	小牧駅前 バ/停 小牧駅 ⑫ バス約15分
注：入館料要		

*詳細なバス停からの時刻は各コース番号の時刻表をご確認ください。

バ/停	バスコース番号	時刻(例) ↓	移動方法 & 時間	観光場所	見学所要時間
小牧駅 発	11	10:15 11:20 12:30	バス約4分	玉林寺 神明社 メナード美術館 小牧山 (歴史館)	20~30分 15~20分 30~40分 40~80分
市民会館南 着		10:19 11:24 12:34	徒歩5分		
メナード美術館前 発	16 17	10:58 12:06 12:26	バス約8分		
小牧市役所前 着		11:06 12:14 12:34	バス約8分		
間々本町 発	52	12:18 13:28 14:28	バス約3分	間々観音 南へ徒歩8分	15~20分
間々乳観音前 着	12	12:22 13:32 14:32	バス約3分		
小牧駅 発		13:47 14:52 15:57	バス約15分		
小牧駅 着		14:02 15:07 16:12			



○観光コース

表示例 ・バスコース番号： ① ・停留所名： バ/停

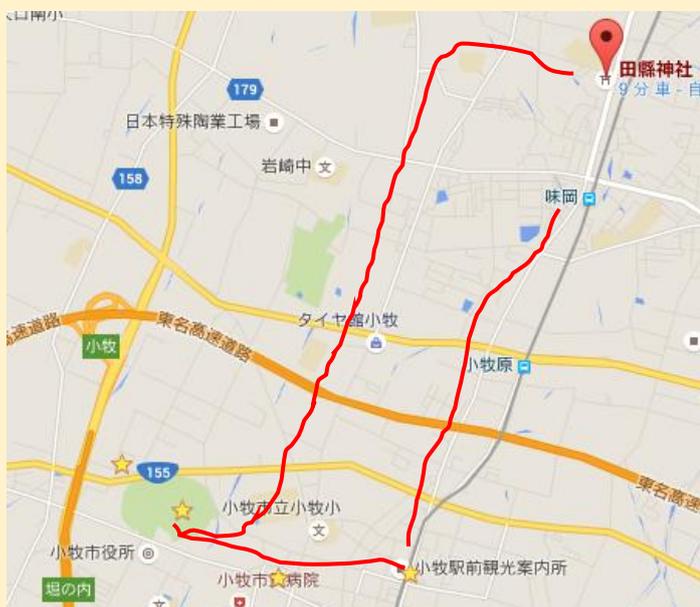
半日コース Bコース(約 3～4 時間) (小牧山と田縣神社)

小牧駅前 バ/停 小牧駅 コース	⑪ バス約 11 分	小牧山 (小牧市歴史館) バ/停 小牧市役所前 徒歩 5 分程 ⑩ バス約 24～32 分 徒歩 5 分程 注：入館料要
--	---------------	--

徒歩 10 分 コース	⑬ ⑭ バス約 13～17 分	小牧駅前 バ/停 小牧駅 味岡駅前 バ/停
----------------	--------------------	--

*詳細なバス停からの時刻は各コース番号の時刻表をご確認ください。

バ/停	バスコース番号	時刻(例) ↓	移動方法 & 時間	観光場所	見学所要時間
小牧駅 発	11	10:15 11:20 12:30	バス約 11 分	小牧山 (小牧市歴史館)	40～80 分
小牧市役所前 着		10:26 11:31 12:41			
一色ふれあい公園前 発	16	11:06 12:34 14:10	バス 約 24～32 分 徒歩 5 分程		
味岡駅前 着		11:38 13:06 14:34			
味岡駅 発	17 19	14:15 15:00 15:31	徒歩 10 分程	田縣神社	30～40 分
小牧駅 着		14:32 15:13 15:48			



(注) 田縣神社へは
 一色ふれあい公園前バス停から住宅地を東へ、県道名古屋犬山線を名鉄田県神社前駅方向へ徒歩 5 分程歩くと神社に到着。
 帰りは神社を右側へ、県道名古屋犬山線を南向きに 10 分程歩き 3 つ目の信号交差点を左に曲がると味岡駅バス停があります。
 *バスではなく名鉄田県神社前駅までは徒歩 5 分程です。

◆小牧山城概要◆

■小牧山（国指定史跡）

標高85.9m。面積約21万㎡。小牧山は、小牧市のほぼ中央、市街地の西側にあつて、濃尾平野に孤立する小さな山で、昭和2年一般に公開、この年国より史跡の指定を受け、その後徳川家から小牧町（当時）へ寄付されました。この山は古くから桜の名所として親しまれ、今日では4月上旬に「小牧山さくらまつり」が催され、たくさん見物客でにぎわいます。

■小牧市歴史館

小牧山の頂上に建つ郷土資料館。昭和43年、平松茂翁（故人）が私財を投じて建設し小牧市に寄付されたもので、鉄筋コンクリート3層4階建て、高さ19.3m、秀吉が京都聚楽第に建てた飛雲閣（現西本願寺内）をモデルにして名古屋工業大学城戸久教授（故人）の設計によって建てられました。

館内は市指定文化財の銅鐸、銅鏡をはじめ考古・民族・歴史資料や小牧・長久手合戦のパノラマなどが展示されて小牧市の歴史を知ることができます。4階は展望室となっており、信長の気分になって周囲の景色を一望することができます。

■歴史

永禄6年（1563）織田信長が美濃（岐阜）に進出する大志のもとに、地の利を得たこの山に目を付け、清須（洲）城から移ると共に山全体を要塞にするため、山頂から麓まで5段の塁濠をつくり、山頂に屋敷、南側に大手道、北側に搦手道をつくりました。中腹には馬場をつくったり、井戸を掘ったり、また要所に重臣の邸宅を置きました。その後信長は美濃に攻め入って岐阜稲葉城に移り住んだので、この山は自然廃城となりました。そして小牧・長久手の戦いで再び歴史の舞台に登場してきます。

■天正小牧山合戦

天正10年（1582）の本能寺の変の後、信長の後継者問題で二男信雄と秀吉が対立、秀吉は信雄を懐柔しようとしませんが、これに応ぜずかえって反逆したため北伊勢の居城を攻撃します。信雄は驚き家康に援助を求めたところ、信長に恩のある家康はこれを引き受け、自ら大軍を率いて清須（洲）城に入り、地の利第一の小牧山に軍を進めました。一方秀吉は大坂（阪）城を出て犬山に入り、市内の岩崎山を中心にこの付近各地に巾広く砦を築いて、小牧山の家康・信雄軍と対峙しました。この時の両軍の兵力は10万余と言われます。しかし、戦いは小ぜり合いを繰り返し、長く膠着状態が続きました。秀吉は、部下池田信輝の再三の進言によって、家康の居城である岡崎城を攻撃すれば一挙に解決するものと考え、軍の一部を密かに移動させますが家康軍に気付かれ、家康自ら秀吉軍を急進撃します。これが長久手を舞台に繰り広げられた長久手の戦いで、家康軍の完勝となりました。

